

自然教室だより

4月・春の奈良公園自然観察会報告

辻本 信一

平成 31 年 3 月 27 日 (火)、平成最後の自然観察会を奈良公園にて実施しました。昨年は桜(ソメイヨシノ)の開花が 10 日近くも早まり、今年は先手を打って 3 月中の開催としましたが、思いのほか肌寒い日が続き、予想は見事に外れ(ソメイヨシノ)開花宣言前の桜見物となりました。

それでも奈良公園の桜はソメイヨシノだけではないことをご存知の粋人^{すいじん}14 名が集合。この時期満開となるヒガンザクラ(エドヒガン、コヒガンザクラ)さらにはエドヒガンの変種シダレザクラを中心に春を告げる可憐な花の数々をみんなで堪能いたしました。



参加者の皆さん

まず足を運んだのは、浮御堂がある鷺池・荒池周辺。そちらでは、先の方でよく枝分かれし、杯形の樹形から遠くからでもそれとわかるコヒガンザクラに出会いました。



コヒガンザクラ

小高木のコヒガンザクラは、目の高さでじかに花を観察できるので、花の特徴を観察するのに最適です。皆さんに注目して頂いたのは筒状になった萼^{がく}(萼筒^{がくとう})の部分。エドヒガンの萼筒は大きな丸みを帯びた壺型ですが、コヒガンザクラはこの壺型の部分が比較的小さく、その上の直線部の方が少し長いと言う特徴があります。そのエドヒガンには午後から立ち寄った浮雲園地^{うくも}で出会いました。



浮雲園地のエドヒガン

鷺池周辺では、一目見てモクレン(マグノリア)科の花と分かる真っ白な大きな花があちらこちらで満開。近づいてみるとそれぞれ種が違い、ハク

モクレン、コブシ、シデコブシ 3 種の競演でした。

ハクモクレンの花弁は 3 枚の萼片^{がくへん}も花びらそっくりで 9 枚のように見えます。コブシは 6 枚で特徴のある緑色の葉が 1 枚ワンポイントで付いています。シデコブシは、文字通り四手のような花びらが 12 枚以上付いているのが特徴です。恐らく計画的に植えられたものと思いますが、近くで見比べながら観察ができ良い勉強になりました。



鷺池そばのコブシ



高台にはハクモクレン

昼食は高台の四阿^{あずまや}で弁当を広げ楽しく歓談。その後、エドヒガンのある浮雲園地を通り、新公会堂の日本庭園に直行。こちらでも満開のコヒガンザクラに出会いましたが、お目当ては 4 月号会報でも触れたカタクリの花。このところ寒い日が続き、出会えないかもとある程度覚悟していましたが、参加者のお一人が目ざとく蕾^{つぼみ}を発見。その声で全員が活気づき、目を凝らす先には見覚えのあるカタクリの花の可憐な蕾。全員が夢中でシャッターを切りました。恐らく 1 週間後にはたくさんのカタクリが咲きほころぶことでしょう。



可憐なカタクリの蕾

こちらでは、房状の黄色の花をいっぱいつけたトサミズキ、赤みを帯びた園芸種の立派なアセビの花が目を引きました。例年のことながら、締めは氷室神社のシダレザクラ。こちらもしっかり満開となっていました。残念ながら昨年のもので、大木の方は 3 本の枝が切れ元気無く、小さい方が頑張っていました。



氷室神社のシダレザクラ

このように春の訪れをからだ全体で感じませんか? 次回、観察会でお待ちしております!